



小さきは小さきままに 折れたるは折れたるままに コスモスの花咲く

今、朝の校舎には毎日合唱の歌声が響いています。合唱祭を来週に控え、歌声が日に日にきれいになってきているのがよくわかります。

例年なら、今頃はコスモスの花があちこちで咲いている頃ですが、今年は見かけることが少ないように思えます。毎年1年生が校外学習で訪れているマザー牧場も満開のコスモス畑が見られる頃ですが、台風の後、ほとんどの花が茎から倒れてしまったそうです。思えば台風15号に続いて19号、そしてその後の大雨による河川氾濫と、この二ヶ月は自然災害の恐ろしさを思い知らされました。本校も河川氾濫と土砂災害への対応のため、避難所開設を2回行いました。特に12日の台風19号の時には、50人以上の方が本校に泊まれ、暴風雨の中、不安な一夜を過ごしました。今回、県内外で数え切れない程の多くの方が被災され、大勢の方が亡くなりました。当たり前が一瞬にして変わってしまうことがある、ということを目の当たりにして、ショックを受けた子供たちもいたことと思います。

そんな中、学校では18日(金)に前期の終業式を行いました。その時、私から全校生徒に話したのは、「当たり前だと思っていることも、実は当たり前ではない」ということです。一例としてあげたのは、子供たちが毎日食べている「給食」です。9月9日(月)の未明に千葉県を縦断していった台風15号は、県内各地に大きな爪痕を残しました。その日、給食の食材を搬入する業者の方は台風の暴風雨の真っ只中の午前三時頃に食材を搬入し、調理員の皆さんも猛烈な雨風の中出勤して、早朝から作業に入ってくれました。その結果、生徒達は普段と変わらずいつもの時間に給食を食べることができました。

毎日当たり前のように食べている給食ですが、実はこの日、市内の小・中学校では給食が出来上がらずに時間を遅らせたり、献立を変更したりした学校も多かったのです。中には、給食そのものが出来ずに、急遽午後の授業をカットせざるを得なかった学校もありました。本校で一切の変更なく予定通りの教育活動が行えたのは、そういった給食に携わる人々の「思い」があったからです。調理員さんと話していると、おいしい給食を食べてもらいたい、という強い思いを感じます。

その他にも、月に一度校内美化のための作業をしに来てくれている、通称「船中サポーター」のみなさんの話や、毎週月曜日の朝に八栄小下のバス通りのゴミ拾いをしてくれている近くの事業所の方々のことなど、私たちはみんな誰かの「思い」によって支えられている、ということを知ってもらいたいと思い、今回子供たちに紹介しました。一人一人の力は小さくても、同じ思いを持って取り組んだときに何かを達成することができる、ということを知ってもらいたいと思ったのです。

来週の合唱祭も、子供たちにとっては特別な思いがある行事です。その思いが少しずつお互いの心を寄り添わせて、最後に気持ちぴっちり合ったときには、かけがえのない経験となることでしょう。コスモスの花は一本ずつ見てみると細く、頼りなげではありますが、小さい茎も曲がった茎も、それぞれにしっかりときれいな花を付けていきます。先日の台風で茎から倒れてしまったマザー牧場のコスモス畑も、今頃はきっと様々な大きさの花をつけていることでしょう。合唱祭の全校合唱は、今年も「花は咲く」です。それぞれの思いが花開く合唱祭になることを願っています。